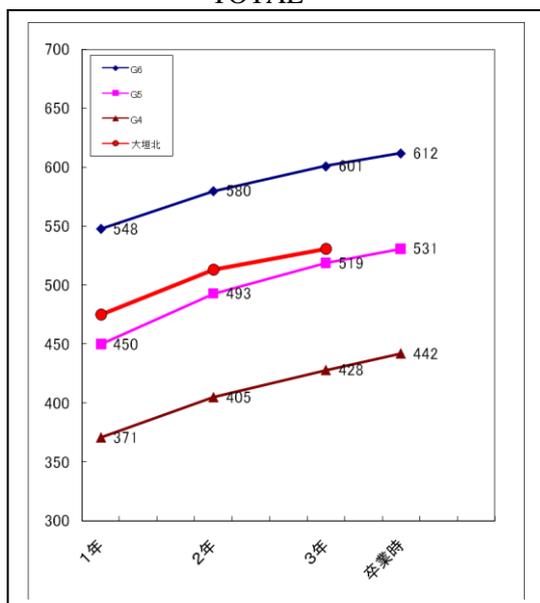


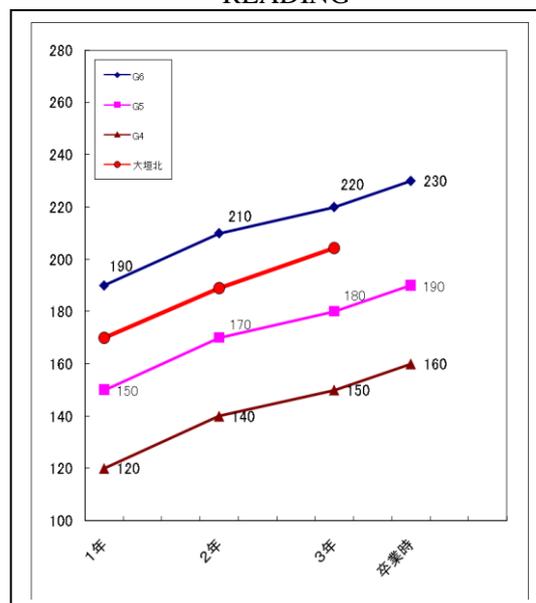
## 英語力向上アクションプラン「小中高英語指導改革プロジェクト」 研究協力校における取組

高等学校	岐阜県立大垣北高等学校
研究期間	平成19年度～平成21年度
研究主題	「実践的コミュニケーション能力を養う英語指導法の研究」
研究方法	GTECを3年間受験することにより、英語運用力の変遷を客観的に把握しながら、アクションリサーチの手法を用いて、効果的な指導内容・指導方法を実践的に研究する。

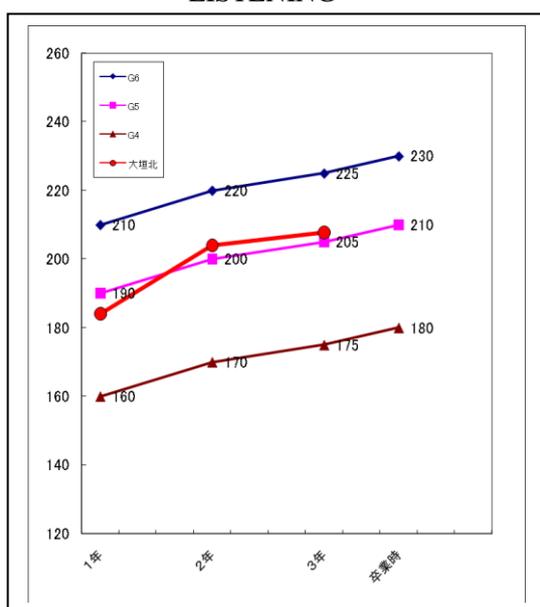
TOTAL



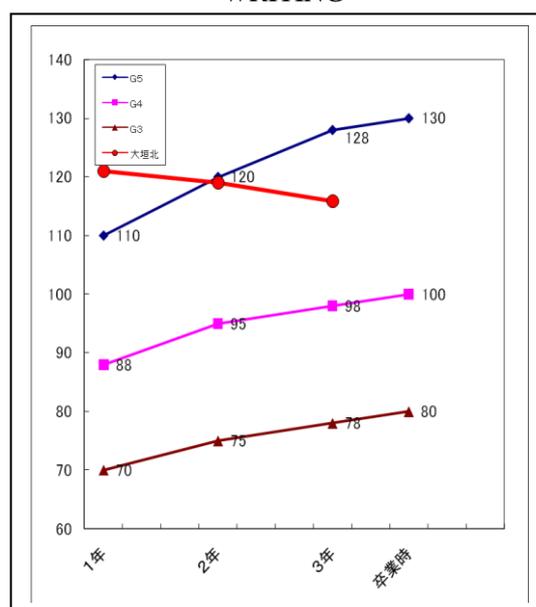
READING



LISTENING



WRITING



## 1 1年次の取組

### (1) 研究テーマ

- ・「素早く読む力を伸ばす指導」について
- ・「学んだ内容を定着させていく指導」について

### (2) 生徒の現状

- ・中学校までの学習を通して、基本的な「聞く・読む・書く」力は十分に身に付いている。
- ・学習意欲が高く、どんどん先へ読み進めたいという意欲をもっている。
- ・英語の学習を通じて様々なものに興味を持ち、考えを深めている。レッスンごとにその内容について作文を書くと、非常にアイデア豊かな英文を書くことができる。
- ・英文を読み進めて、概要を把握する力は優れている。
- ・文法事項の定着は全般的に十分ではなく、英文を読む際には、一文ごとの語彙・文構造の理解に意識が集中してしまう。また少し込み入った文になると正確な理解がとたんに難しくなるなど、文法を応用して未知の英文を正確に読み取っていくレベルには至っていない。
- ・おとなしい生徒が多く、音読や返答など十分な声が出せないことがある。
- ・予習を中心に家庭学習を進めている生徒が多い。復習を十分にしておらず、学習内容の定着が出来ていない生徒もみられる。

### (3) 研究テーマ設定の理由

- ・基本的な「聞く・読む・書く」力を土台としてより英語の力を伸ばすには、より長い英文を素早く読み、正確に情報をつかむ力、正確に読んでまとめる力、聞いた内容をまとめる力を伸ばすことが必要である。
- ・読解スピード(速読力)において、センター試験で8割以上を得点するためには、130WPM(GTECではWPM110で、センター試験80%以上と判定されている)が必要とされるのに対し、今回のGTECの結果によると、本校生の平均は78.6WPMであり、読解スピードを倍近く上げる指導が必要となる。未知の英文を読むために不可欠の知識である文法の習得に加え、英文を左から右へ読む技術を習得するための練習、文章や会話の内容を予想しながら読み進める活動を設定したい。
- ・授業では読み取るための活動、読み取った内容に基づく活動を多く設定している。また授業での全体の要約や英作文の活動によって、テーマについての理解が深まったと感じている生徒が大半であり、効果的であると考えられる。
- ・7月の「質問紙調査」では、復習をしっかりとしているという生徒は28%と少ない。そのために、音読や書き取りなど様々な角度から学習の定着を図る方策を探求したい。
- ・7月の「質問紙調査」では、単語や英文の音読について「読むことができる」「だいたい読むことができる」と言う生徒は87%と、教員の予想より多い結果だった。今後は特に音読、シャドーイング、ディクテーションなど「音」に焦点をあて、生徒が積極的に取り組む指導法を探求したい。例えば学んだ英文を適切に音読することを通じて、英文を左から右へと読み進める直読直解の感覚を定着させていきたい。

#### (4) 研究の内容と実践

##### ア 仮説テーマ

- ①読み取る前に本文内容に関する活動を設定し、テーマ・目的を持って英文を読み進めることによって、英文全体の内容を理解する力を伸ばすことができるのではないかと。
  - ※読み取るべき情報の検索や、概要の把握をする。
  - ※主題→展開→結論などの文章構成に注目する。
  - ※主張に対する原因や理由を意識して読む。
  - ※未知の英文を素材として、文中の1語にこだわらず文法や背景知識を活用しながら読む。
- ②スラッシュリーディングを通じて、句と節など「文中の意味の区切り」を理解し、内容に沿った音読をすることによって、直読直解の感覚が身に付くのではないかと。
  - ※句や節を見分けながらスラッシュを入れる「スラッシュリーディング」の手法で英文を分解し、日本語とは違う文構造に慣れる。
  - ※文法や文型の知識を活用し、意味上の区切りを入れながら読み進める。
  - ※書かれた内容を表現するようにシャドーイングや音読をする。
- ③学んだ内容について、「読み」「書く」機会を設定することで、読んだり、聞いたりした内容を定着させることができるのではないかと。
  - ※語句や文構造を確認する練習として、ディクテーションに取り組む。
  - ※本文の内容を、主題→展開→結論などの文章構成に注目して英語で要約する。
  - ※本文内容に沿ったテーマを設定して、自分の考えを英語で書く。

##### イ 実践 [英語 I: 文英堂『UNICORN ENGLISH COURSE I New Edition』をベースとして]

- ①読み取る前に本文内容に関する活動を設定し、テーマ・目的を持って英文を読み進めることによって、英文全体の内容を理解する力を伸ばすことができるのではないかと。

###### 展開例

①実施時間: 各レッスンの冒頭(配当の1時間目)

②準備: パターン(1)教科書の各レッスンの冒頭部分 “Before you read” (トピックに関する Listening)

パターン(2)各レッスン末の”Organizer”(内容に関する Question)

③展開: レッスンに応じて、パターン(1)又は(2)で行う。

**パターン(1)** Listening による導入

※教科書該当ページを利用した Listening の後、放送された英文スクリプトを配布し確認する。

(所要時間 10分程度)

※これから扱う英文のトピック・キーワードをつかむ。

※テーマに関連したペアによる話し合いの場を持ち、テーマに関する各自の考えを発表させる。

**パターン(2)** Scanning による導入

※レッスンを一斉に黙読する時間を設け、全体を通して読む(800語程度・所要時間 15~25分程度)。

※英文を読む前に、Question を配布し「つかむべき情報」を示す。その上で英文を読みながら情報検索し、Question に答える。

※ペアによる話し合いの場を持ち、英文のトピック・キーワードを予想させ、発表する。

教材例

◇ 教科書 Lesson 6 “The Great Journey” 人類発展の跡を追って旅をする関野吉晴氏の物語  
パターン(1) Listening による導入

【南米パタゴニア⇒ベーリング海⇒シベリア⇒ゴビ⇒ヒマラヤ⇒タンザニア】

- (1) 地図を見ながら経路をたどり、①地名 ②交通手段とその特徴を聞き取る。
- (2) 聞き取った交通手段の特徴(例 camel～砂漠での旅)をペアで出し合い、関野氏の旅はどのようなものだったのか想像し、読解の手掛かりとする。

②スラッシュリーディングを通じて、句と節など「文中の意味の区切り」を理解し、内容に沿った音読をすることによって、直読直解の感覚が身に付くのではないか。

展開例(1)スラッシュリーディングの導入

①実施時間:「初期指導」のうち1時間(入学当初のオリエンテーション「初期指導」の一環として)

②準備:教科書 p28、“English Journal”(August,2005)記事を使用

③展開:

(1)教科書の該当ページ(「UNICORN ENGLISH COURSE I」、p28)を全員で音読する。

(2)不定詞、分詞、動名詞、関係代名詞節など、「意味の区切り」となる原則を紹介し、スラッシュを入れながら英文を区切り、英文を左から右へ直読直解するよう集中して指導する。

(3)最初は、原則のプリントを見ながら授業中にスラッシュを入れていく。徐々に各自の予習で行うように移行していく。

※チャンクごとの意味を意識しながら、音読する練習をする。

※一過性のもの、機械的なものにならないよう留意し、英文を読み進める手法として位置付けていく。

教材例(1)初期指導にて「意味の区切り」となる原則として挙げたもの

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| ①関係詞 「名詞/関係詞+文要素/」 | ②接続詞 「/接続詞+文要素/」  |
| ③過去分詞 「/過去分詞.../」  | ④前置詞 「/前置詞+名詞要素/」 |
| ⑤不定詞 「/to 不定詞.../」 | ⑥動名詞 「/動名詞.../」   |
| ⑦現在分詞 「/現在分詞.../」  |                   |

教材例(2)教科書以外の教材の利用

◇『感動する英語!』(近江誠、文藝春秋社、2003年)

『挑戦する英語!』(近江誠、文藝春秋社、2005年)

①目的:

※本プロジェクトの予算により、聞き・読み・理解する活動を、スピーチという素材を通して、実践的・統合的に取り扱うことのできる教材として導入した。

※計15編のスピーチを通して、コミュニケーションの手段としての英語に触れる機会を充実させる。

※この2冊は、社会の著名人によるスピーチの音声(聞く活動)、スピーチの原稿(読む活動)

から成る。生徒それぞれが聴衆の一人となって聞き・読む活動を通して、スピーチの場面や伝える相手など、英語が伝えようとしているものを具体的につかむことができる。

※自らが話し手の立場に立ち、話し手の気持ちになってスピーチをする練習を通して、聞き・読む活動を通して理解した内容、感情などを表現する体験ができる。

②実施時間:「総合的な学習の時間」と連携し、実施する。

③展開:

(1)チャップリンの映画”The Great Dictator”をスピーチの例として取り上げ、スピーチ原稿(『感動する英語!』)を見ながら鑑賞する。

(2)心を動かされた内容、話し方、アイコンタクトなど動作について、ペアで話し合い、考えを深める。

(3)『感動する英語!』『挑戦する英語!』から、興味を持ったスピーチを選ぶ。長いものは2~3ページを原則として各自のテキストを設定する。

(4)音読と表現の活動 収録CDを聞く⇒スラッシュリーディングを基礎とした英文解釈⇒収録CDによるシャドーイングを中心とした読む活動⇒ペアワークによる表現の練習

(5)クラスでの発表を通じて、「意味の区切り」を意識しながら、「伝えたい気持ち」を音読で伝え合う。その後、感想を交換する。

④発展:

(1)テキストを参考に、自らのスピーチを作成する。

(2)ペアワークによる内容の添削と表現の練習を通じて、「伝えたい内容と気持ち」が伝わるよう工夫する。

(3)クラスでの発表を行う。その後、感想を交換する。

③学んだ内容について、「読み」「書く」機会を設定することで、読んだり、聞いたりした内容を定着させることができるのではないか。

展開例(1)ディクテーション

①実施時間:各レッスンの最後のまとめとして実施

②準備:英文中の語句を空所( )にしたプリント(以下「プリント」)を作成。(学年担当者が持ち回りで作成)

③展開:「プリント」を課題として配布し、各自で音読などの復習をする。授業では空所( )を中心にしたディクテーションを実施。

④評価:定期考査に一部を出題することにより、定着を確認

展開例(2)テーマに関する英作文

① 実施時間:各レッスンの最後のまとめとして実施

② 準備:教科書各レッスンの内容を使用し、Topicを設定

英文の形式、テーマ、使いたい表現、語数などの条件をALTとJTEで相談しまとめておく。

③ 展開:

(1)レッスンの内容把握後にTopicを発表。(前時)

(2) ペアでブレインストーミングの時間を設け、書くべき内容を深める(所要時間 10～15 分)。

(3) 英作文(所用時間 20～25 分)

※宿題にせず、授業時間内で書くことを主眼とする。

※Topic によって分量を調整する。

※Oral Communication や副教材など、様々な場面で学んだことも「総合的に用いる活動」とする。

④ 評価

いずれかの形で、内容・英語表現の 2 点から評価する。

※次の授業時にペアワークによる相互評価 / ALT による添削・評価 / JTE による添削・評価

教材例

◇教科書 Lesson 7 “ONE STEP BEYOND”地雷除去に取り組む Chris Moon の人生

・英作文の条件

[ Chris Moon への手紙 ] Chris のどのような点に興味を持ったか、Chris に尋ねたいことを入れる。

[ 60 words 以上 ] 2 つ以上のパラグラフで、展開を考える。

[ レッスンで扱った文法事項= 名詞節・名詞句の活用 ] 疑問詞で始まる句・節を 2 ヶ所以上使う。

※副教材で学んだ事項[比較・仮定法]を使ってもよい。

※次の授業でスピーチの形で発表し、相互評価する。

◇教科書 LESSON 8 “ARE WE ALONE IN THE UNIVERSE?” 地球外生物はいるのか?

・英作文の条件

[ レッスンで扱った文法事項= 仮定法の活用 ]

[ バージョンアップ ] Lesson 7 Chris Moon への手紙を、仮定法の表現を生かしてリライトする。

※副教材で学んだ事項[話法・否定・無生物主語]を使ってもよい。

※全員の手紙を Chris Moon に送る。(翌年 4 月にロンドンから返事があり、感動しました!)

生徒の作文例 (原本は手書き・スペリングミス等は原本のまま)

◇男子 A

Dear Chris Moon.

Hello, Mr. Chris. I'm a high school student in Japan. I read about your story and sympathized with your mind. You joined HALO and removed landmines. I think that it is very dangerous and very tough to remove it. If I were you, I could not do such a thing, but you did. I respected you because of this.

I want to find what I can do for the other person. If I had not read, I would not have thought that.

I want to know what you will do next. I'm looking forward to your doing a next thing. I want your reply.

Good bye.

◇男子 B

Dear Chris Moon

I'm a high school student. I read your story. Your story gave me important things for living.

I was surprised that many landmines kill a lot of people every day. The fact makes me sad, but I can't do anything for peace. If I were you, I couldn't do anything. However, you are different from me. You are a fine person who can show feelings by action. You taught me how to live.

I found that doing something to help others was much more important than living only for myself. I want to live for others. People would appreciate it if you keep doing for injured person.

#### 展開例(3) Oral Communication ・ Final Project

①実施時間:Oral Communication で学んだ表現を使うまとめの活動として、1年生の最後に実施  
情報検索とスライドの作成は「総合的な学習の時間」と連携して行う。

②展開:場面(ロードムービー風のストーリー)を設定し、学んだ表現を使用してひとつのストーリーを作り、発表する。

・ストーリーの条件

[形態・使用場面] ペアによるスピーチとし、2人である国へ旅をする設定とする。

[スピーチ・スライド] 訪れる国の状況、カルチャーショックを感じた(感じるだろうと予想される)出来事をインターネット等から調べ、パワーポイントを用いてスライドにまとめる。

[ダイアログ] スピーチ中に旅の一場面を設定し、Oral Communication で学んだ会話のスタイルを利用したダイアログを取り入れる。※Asking direction, Restaurant, Shopping, Immigration など

③発表と評価:スライドを表示しながら、発表(スピーチ・ダイアログ)し、内容・表現について相互評価する。(クラス代表を選抜し、代表による発表会も行う。)

#### 展開例(4)朝リスニング

①実施時間: 通年・朝 SHR 前(8:30～8:35 所要時間 5 分間)

②準備:

教材作成◇ALT と英語科内の朝リスニング担当者

ALT のオリジナル教材(「Japan Times」やインターネットでのニュース、季節の行事、文化紹介、校内行事、歌、詩、物語など)、「Catch a wave」(浜島書店)、「Mainichi Weekly」(毎日新聞社)、リスニング教材(副教材から)

プリント印刷◇英語科内の朝リスニング担当者及び各学年の副担任(持ち回り)

放送◇英語科内の朝リスニング担当者及び各学年の副担任(持ち回り)

③展開:

(1) HR 単位で、プリント配布(毎週 B4 サイズ 1 枚)

(2) 担任の指導の下、全校の一斉放送にてリスニング(約 4 分)

(3) 各自答え合わせ(1 分)

(4) HR 単位で事後指導(回収など)

# Morning Listening Sheet

Welcome to Kitako and welcome back to another year!

4/11 What is Morning Listening?

Memo :

Questions:

- TRUE or FALSE: Andrew has been at Kitako for 8 months.
- Usually, the listening examples are read \_\_\_\_\_ so that you can have...  
a.Once b.Twice c.Three times d.10,000 times
- Fill in the blank: Sometimes the listening is very \_\_\_\_\_ but the questions are easy.
- Therefore, you should \_\_\_\_\_ read the questions before you \_\_\_\_\_.



Script:

Good morning everyone. To the ichinensei, welcome to Kitako! I hope your first day was not too difficult...or traumatic. To the new ninensei and sannensei, welcome back to another year. Now let's begin the first Morning Listening test.

Today, I will briefly introduce myself and explain about Morning Listening. My name is Andrew Santos and I am the ALT at Kitako. I am an American and have been at this school for 2 years and 8 months. Every day I make a small listening script for the entire school with other English teachers. Sometimes the test is a short essay and sometimes it is more like a game or activity. Usually, the listening examples are read twice. You can have two chances to understand what I am saying. Sometimes the listening is very difficult but the questions are easy. Therefore, you should always read the questions before you listen. It may seem a little difficult at first, but you will improve quickly.

Answer:

1. TRUE    2. b    3. difficult    always    listen

## ◇実践事例と実施時期

実施時期	実践事例	目的
4月 入学後	オリエンテーション 初期指導	・予習と復習、授業への取り組み方など、高校での学習方法を学年共通の形で示す。
	品詞・辞書使用の指導	・語句や文型理解のための基礎知識として、品詞の種類・文中での使い方を指導する。 ・例文・品詞の活用など単語帳の使い方を指導する。
	発音記号の指導	・発音記号の読み方、表記と発音をあわせて指導する。 ・教科書の”SOUND PRACTICE”も随時利用する。
	スラッシュリーディング	・実践②を参照

	の指導	
	本文プリント・ディクテーション・英作文の導入	・実践③を参照(以後レッスンごとに実施)
通年 週末課題	課題としての長文問題集、「Weekly Test」の実施	・長文問題を課題として未知の英文を読み進め、概要をつかむ。 ・文法の復習問題を通して定着を確認する。 ・「Weekly Test」として復習テストを週1回実施する。
5月 中間考査	定期テストでの英作文	・採点を担当した ALT から、共通した間違いや使用したい表現の解説をする。(以後定期考査ごとに実施)
6月	Oral Communication I スピーチ	・授業の冒頭に、各自の体験や普段思うことについて1分間スピーチをする。(11月ごろまで) ・スピーチを発表する前に、文型や文法に留意して添削する。
8月	夏季課題	・課題を通じて未知の英文を読み進め、概要をつかむ。 ・文法の復習
10月	「総合的な学習の時間」と の連携	・実践②を参照(12月まで) ・『感動する英語!』『挑戦する英語!』を用いた音読
12月	冬季課題	・課題を通じて未知の英文を読み進め、概要をつかむ。 ・文法の復習
12月	「Oral Communication I」ファイナルプロジェクト	・実践③を参照(3月まで) ・情報検索とスライドの作成は「総合的な学習の時間」と連携する。
3月	春季課題	・課題を通じて未知の英文を読み進め、概要をつかむ。 ・文法の復習

## ウ 検証 [校内アンケート(2月実施)から]

### ① 読み取る前の活動

- ・テーマを意識することで、文中に分からない語句がある場合も、どんどん読み進めていくようになった。
- ・テーマを意識することで、一文一文についても、より正確につかむことができるようになった。
- ・主題→展開→結論などの文章構成をとらえ、スムーズに summary にまとめることができるようになった。

### ②意味上の区切りと音読

- ・スラッシュリーディングの方法により、文中に分からない語句がある場合も、どんどん読み進めていくようになった。
- ・意味上の区切りを意識することで心情や状況を理解して音読するようになり、意味のある音読になった。
- ・話されていることの意味やリズムが理解でき、リスニングの力にも反映されてきた。

### ③学んだ表現を使用し、まとめて表現

- ・復習の方法として生徒にとっても取り組みやすいようであり、語句・構文の定着や音読の姿勢は良くなった。
- ・英作文では学んだ文法事項を使って自分の意見の一部を表現することで、理解が深まった様子である。

#### (4) 成果と課題 [2年生7月実施・GTECと「質問紙調査」、校内アンケート(7月実施)から]

##### ア 成果

###### ①生徒の意識

- ・音読、意味理解、本文リスニング、本文ディクテーション、シャドーイングは活動として定着してきた。
- ・ペアワークやグループワークでの活動に前向きに取り組むことができる。

###### ②英語能力

- ・GTECの結果からは、全体としてリーディングとリスニングの力が伸びている。
- ・リーディングでは語い、語法、概要把握、要点理解ともによく伸びている。大量に読むこと、音読の徹底、一文ごとの文構造の把握等、授業での多様な読解活動によって、読解力が伸長したと考えられる。
- ・リスニングの大きな伸びは、授業や家庭学習として教科書を用いた活動に加えて、「朝リスニング」のように継続的にまとまった量の英文を聞く活動が、概要把握・要点理解力の向上に効果があったのではないかと考えられる。
- ・(7月現在)2年生ではリーディングを中心課題として取り組んでいるため、GTECでのライティングには伸びが見られなかった。

##### イ 課題

- ①読み取りでは、読み進めるスピードの向上を目指し、文章中のディスコースマーカーなどにも注目したい。またより高度で複雑な文章を理解するために、1年次の取組をどのように生かしているか、さらに研究を進めたい。
- ②今後は、教材の難化によって学力や取組の二極化が予想される。1年次で英語学習の基礎をつかんだとするならば、2年次では基礎の徹底定着が鍵になる。授業における活動が単調にならず、目の前のテストや授業を各自の英語能力へと転換していく方策を考えていきたい。

## 2 2年次の取組

### (1) 研究テーマ

- ・「読める力・書ける力を様々な角度から伸ばす指導」について
- ・「学習の積み重ねにより、学んだことを再現できる力を身に付ける指導」について

### (2) 生徒の現状

- ・生徒の大半は意欲的で、よく学習全般に取り組んでいる。
- ・英語の学習については1年次から取り組んでいる学習方法が定着し、習慣化してきた。  
例) スラッシュリーディングによる読み・内容理解の指導、教科書の音声教材の活用、教科書本文を利用した復習
- ・授業を中心として、予習や小テストを中心に取り組み、復習には手がまわらない様子である。

- ・ペアワークに積極的に取り組み、アイデアの共有を通じて理解を深めている生徒が多い。
- ・読むことに抵抗が少ないため、どんどん読み進め、おおまかに英文の概要をつかむことができる。しかし、パラグラフや文章全体をまとめる力には差がみられる。
- ・これまでの学習の積み重ねが、生徒たちの現在の学力に大きく反映しており、徐々に難化する教材に対して行き詰まりを感じている生徒もみられる。また従来の学習方法にさらに工夫が必要ではないかと思われる。

### (3) 研究テーマ設定の理由

- ・全体として、学んだ内容を定着させていくための復習が鍵となると考える。1年次では授業ごとの定着を課題としていたが、2年次ではその1年分の積み重ねを基礎とし、内容的にも、方法的にも発展させた活動を設定したい。
- ・3年次への橋渡しとして、科目や教材にこだわらず、英語科全体として「英語の力」を高めるような活動を設定していきたい。

#### GTEC の結果から

- ・リーディングでは要約や情報検索の力が伸びている。
- ・英文の読解に対する生徒の取り組み方としては、「本文の単語調べ→本文訳→本文の音読」という予習が定着している。読む量としては十分な量があるため、教材をさらに活用し、語いを増やすこと、パラグラフの構造をつかむことによって、未知の内容にも対応できる英語力へと向上させていくことが課題となる。
- ・リスニングでは聞き取りの正確さが増し、全体として伸びている。授業に加えて、全校で取り組んでいる朝リスニングでは、まとまった量を聞いた上での概要把握という活動を毎朝繰り返し行っているため、読み・聞く活動において本文全体をつかむ力が伸びているように思われる。集中力を持って聞き取る力、語いを増やすことで言い換えの表現に対応できる力をさらに伸ばしたい。
- ・上記に対して、ライティングは2年次で取り組む機会が少ないためか、あまり伸びておらず、対策が必要である。具体的には、伝えたい内容に対する語いの少なさが課題として挙げられる。文法的に正確に書く力も伸ばしたい点である。また今回の設問では、意見を持つ(=意見を書く)ことも問いの一部であったが、自分の意見を持つための思考力が十分でないと考えられる。

#### 「質問紙調査」(昨年度同時期の調査との比較)から

- ・「英語があまり得意でない」、「全く得意でない」と答える生徒が合わせて40%から50%へと増加しているのが気掛かりである。
- ・平日の学習時間は1年次と大きな変化はないが、休日の学習時間は「2時間ほど」と答える生徒が25.5%から17.8%へ、「1時間ほど」が24%から35.5%へと、全体的に時間短縮の傾向にある点も気掛かりである。
- ・家庭学習は予習(単語調べ、本文の訳)と課題が中心であり、予習したものを授業で確認するスタイルが増えている。「課題」と答える中には配布した復習プリントが含まれていると考えられるが、授業時のノートを活用した各自の復習に取り組む生徒は31%から23%へと減少している。
- ・「英語教科書の本文を読んで理解する」という項目では、「意味を理解できる」「意味をだいたい理解できる」生徒があわせて58%から70%へと増加している。
- ・ディクテーションについて「書ける」「だいたい書ける」生徒が合わせて15%から28%に増加

し、「短い文章なら書ける」という生徒まで含めると全体の90%が「書ける」と答えている。

- ・シャドーイングについて「つかえずつぶやくことができる」「だいたいできる」生徒が合わせて30%から46%に増加し、「唇は動かすことができる」生徒を合わせると全体の89%が「できる」と答えている。
- ・「あらすじを押さえてサマリーを書くことができる」項目でも、「書くことができる」生徒の増加が見られる。
- ・「英語のエッセイや論述」という項目では、「ある程度の長さのものでも書ける」「何とか書ける」生徒が合わせて15.7%から25%へと増加し、「短い簡単な内容なら何とか書ける」まで合わせると全体の79%が「書ける」と答えている。

#### (4) 研究の内容と実践

##### ア 仮説テーマ

- ①パラグラフの構造、トピックに注目して、文章構造を理解する活動を設定することによって、英文全体の内容を理解する力を向上させることができるのではないか。(19年度実践の継続・発展)  
※読み取るべき情報の検索や、概要の把握をする。  
※1年次の実践の継続・発展した指導として、主題→展開→結論などパラグラフの構成に注目して論理展開を読み取る。  
※未知の英文を素材として、文中の1語にこだわらず、文法、背景知識、トピック、論理展開を活用しながら読む。
- ②文構造や文型を意識し、意味上の区切り・内容や場面に合った音読をすることによって、直読直解の感覚を身に付けることができるのではないか。(19年度実践の継続・発展)  
※文法や文型の知識を活用し、意味上の区切りを適切にしながら読み進める。  
※書かれた内容を表現するようにシャドーイングや音読をする。
- ③復習として英語を「アウトプット」する練習を多く設けることによって、学習内容の定着を図ることができるのではないか。(19年度実践の継続・発展)  
※語句や文構造を確認する練習として、ディクテーションに取り組む。  
※本文の内容を、主題→展開→結論などの文章構成に注目して英語で要約する。  
※本文内容に沿ったテーマを設定して、自分の考えを英語で書く。
- ④テストを活用することによって、全体の指導計画・生徒の状況に応じた目標を教員と生徒が共有することができるのではないか。  
※到達点を評価できるよう、テストを工夫し、復習教材としてテストを活用する。

##### イ 実践 [英語Ⅱ: 文英堂『UNICORN ENGLISH COURSEⅡ New Edition』をベースとして]

- ①パラグラフの構造、トピックに注目して、文章構造を理解する活動を設定することによって、英文全体の内容を理解する力を向上させることができるのではないか。(19年度実践の継続・発展)

###### 展開例(1)

①目的:読み取る前に、英文のトピックをつかんでおく。

難化する英文に対して、アイデアの共有からトピックの理解を深める。

② 実施時間: 各レッスンの冒頭(配当の1時間目)

③準備:パターン(1)教科書の各レッスンの冒頭部分 “Before you read” (トピックに関する Listening)

パターン(2)各レッスン末の”Organizer”(内容に関する Question)

④展開:レッスンに応じて、パターン(1)又は(2)で行う。

**パターン(1)** Listening による導入

※教科書該当ページを利用した Listening の後、放送された英文スクリプトを配布し確認する。

(所要時間 10 分程度)

※これから扱う英文のトピック・キーワードをつかむ。

※テーマに関連したペアによる話し合いの場を持ち、テーマに関する各自の考えを発表させる。

**パターン(2)** Scanning による導入

※レッスンを一斉に黙読する時間を設け、全体を通して読む(800 語程度・所要時間 15～25 分程度)。

※英文を読む前に、Question を配布し「つかむべき情報」を示す。その上で英文を読みながら情報検索し、Question に答える。

※ペアによる話し合いの場を持ち、英文のトピック・キーワードを予想させる。また、英文の論理展開を予想させる。

展開例(2)

①目的:主題→展開→結論などパラグラフの構成に注目して論理展開を読み取る。

文法、背景知識、トピック、論理展開を活用しながら読み進める。

②実施時間:各レッスンの読解時

③指標となる語句(ディスコースマーカー)/ 内容の指標に注目して、本文を解釈する。

※授業では説明にとどまらず、生徒への発問を中心とする。

教材例

◇教科書 Lesson 5 “A Tour Of The Brain”男女の違いがどこから生じるのか、最新研究からのレポート

**PART 1**

• Men's and women's brains are different.

トピックセンテンス→男女はどのように「異なる」か? 以下に説明があるので?

• New research, however, changes some old myths...

逆説→後の展開に注目 / 「new」と「old」の対比が示すものは?

• Thanks to new medical technology...

おかげで→いい結果を導く→「新しい技術のおかげで」現在分かることは?

**PART 2**

• Most studies agree that men's brains are about 10% bigger than women's. But size does not predict...

ほとんどの研究が示す一定の結論があるが(逆接)→後の展開に注目

• We can see differences, however, in how their brains work.

逆接→後の展開に注目 違いを見出す部分→「大きさ」ではなく「働き」という対比

②文構造や文型を意識し、意味上の区切り・内容や場面に合った音読をすることによって、直読直解の感覚を身に付けることができるのではないか。(19年度実践の継続・発展)

展開例

①目的:

※文章構造を理解した英文について、その「内容の切れ目」の理解度を確認する方法として、意味上の区切りに注意して、内容や場面に合った音読をする。(19年度実践②の継続・発展)

※一文内の意味の切れ目(句や節、SVOC)の段階から、段落内での内容の切れ目(各段落のトピック、例示、結論といった論理展開)の段階へと広げて、段落内を複数の英文のまとまりにまとめつつ音読し、内容を理解する。

②実施時間: 英文読解後

③展開:

(1)ペアワークとし、「読みの切れ目=内容の切れ目」を意識しながら、音読する。

(2)一文ごとの読みから、ある程度の内容(問題・論証・結論など)のまとまりへと、一人が音読する分量を増やし、文章構造をつかむモデルとする。

③復習として英語を「アウトプット」する練習を多く設けることによって、学習内容の定着を図ることができるのではないか。(19年度実践の継続・発展)

展開例(1)ディクテーション

①実施時間:各レッスンの読解後、まとめとして(配当の最後)

②準備:英文中の語句を空所( )にしたプリント(以下「プリント」)を学年担当者が持ち回りで作成し、配布する。

③展開:「プリント」を課題として配布し、各自で音読などの復習をする。授業では空所( )を中心にしたディクテーションの時間を設ける。

④評価:定期考査に一部を出題するなど、作問に反映させて、定着を確認する。

英語を適切に書くよう促すため、英語Ⅱやリーディングでも「英語で書く」ように、設問を工夫する。

⑤発展:

(1)教科書で扱った事項を、形を変えて反復して練習する機会となるよう、副教材を活用する。また授業での取組を授業内にとどめず、各自で生かして副教材に取り組むように促す。

(2)副教材を活用して、基本例文を書くことと声に出すことを同時に行い、定着を図る。

④テストを活用することによって、全体の指導計画・生徒の状況に応じた目標を教員と生徒が共有することができるのではないか。

展開例

① 実施時間: 毎週の Weekly Test や定期考査ごと

③ 展開:

- ・担当教員が集まって答案分析をし、その時々に見出される生徒のつまずきを教員間で明らかにした上で「今付けたい英語の力」の目標として設定する。
- ・英語Ⅱ、リーディング、ライティングなど、科目の特性にこだわらず共通の「目標」として設定し、授業の進め方、スピード、課題の内容に反映させていく。

③発展:

- ・日ごろの小テストや定期考査の出題内容に「目標」を反映させ、到達の程度を確認する。
- ・生徒が小テストや定期考査の答案を見直し、それらを復習材料として、理解のあいまいな点を解消するよう促す。
- ・生徒が自学自習を進められる指針として、「今付けたい英語の力」とそのための方法を生徒に示す。

教材例

◇学年末考査の答案を踏まえ、長期休暇の課題を進める「ヒント」として生徒に配布

春休み(3・26 まで)課題について

①「Cutting Edge 2」 Chapter 1～8 (本冊・ナビブックともに要提出)について

・今回は全訳・要約は提出とはしません。問題演習をしながら内容を読み解く演習をしてください。

・各 Chapter をまず辞書を引かずに読み、速読トレーニングを解く。

次に辞書を引き、内容を理解して設問に答える。

解答・解説をよく読んで理解が不十分なところを確認する。

サブノートの Words & Phrases に書き込んで語句を確認する。

その後、必ず本文の音読をしてください。

内容を理解した上での「まとめとして」の読みが英語を定着させるには重要です。

②「スプリーム英語構文」 P.108～P.127 について

・苦手になりやすい範囲です。演習の上、よく理解していこう。

・左ページは理解した上で、英文を暗唱。

右ページの 1 は正確に訳した後できる限り暗唱する。

2 は、まず辞書を引かずに欄外のヒントを参考にして訳す。

解答編をよく読んで文の構造をしっかりと理解する。知らない熟語や単語は覚えよう。その後、音読。

③「Data Base」 Level 6

・春休み前半では、「Data Base」で単語の総仕上げをします。その後は自分のものとして活用してください。春休み後半では、「システム英単語」で、少し角度を変えて基本の整理をしよう。

・知っている内容の英文なら語彙力が差をつけます。とにかく何回も目にして、例文を声に出して覚えよう。スペリング・意味・発音・用法がわかって初めてその語を身に付けたことになることを忘れずに。

+αのヒント

・模試の結果や、プレノートで見つけた自分の苦手な点、伸ばしたい点を思い出そう。それらに気を配って勉強することでグンと手応えがアップします。

・英語が苦手な人へ

課題のほかに、もう一度 **UpGrade の Part 1** を復習してください。

それでも理解できなければ、**Best Avenue** に戻って理解してください。

余裕があれば、**Best Avenue** の動名詞・不定詞・分詞の復習と例文をできるだけ暗唱してください。

・さらに上を目指す人へ

スプリーム英語構文をどんどん先へ進んでください。

左側のページの例文はしっかり暗唱してください。

最後までいったらもう一度第 1 章から **Exercise** の 3 をどんどんやっていってください。

最終的には、文法の全範囲を押さえて、スプリーム英語構文を英作文のテキストとして使うことを目指します。

**UpGrade の Part 2** の語法も、もう一度理解してください。

#### 教材例

##### ◇Weekly Test

①実施時間: 毎週月曜日「英語Ⅱ」の冒頭 15 分

(どのクラスも月曜日の時間割に「英語Ⅱ」を設定する)

②準備:

・課題範囲は「週末課題」として事前に提示する。

長文課題 / 旺文社「基礎英語長文」

各レッスン(入試問題レベルの長文記述問題)1 題 + 重要類題 1 題(下線部訳)

文法・語法課題 / 数研出版「UPGRADE」10 ページずつ

・学年担当者が持ち回りでテストを作成し、同じテストを同じ基準で実施する。

③展開:

(1)テストの実施(15 分間; B4 サイズ両面)

(2)生徒相互で採点と解説

(3)学年全体で得点集計、問題と答案の講評後、一定ライン以下の生徒は追試(毎週木曜日朝)を行う。

##### ◇教科書以外に授業で行った活動

英語Ⅱ	Weekly Test 週 1 回 使用副教材の目的 長文読解、文法事項を確認する、リスニングの問題演習。
Reading	小テスト 週 2 回 使用副教材の目的 語いの増強を図る。
Writing	小テスト 週 2 回 使用副教材の目的 構文を整理し、文法事項とともに確認する。
朝リスニング	毎朝 5 分間のリスニングを行う。(19 年度から継続) →SHR 前の 5 分間に、全校一斉放送で行う。 ALT の作成による内容で、時事の話題、校内行事、時にはセンター試験対策等。

## ウ 検証 [校内アンケート(2月実施)から]

### ①パラグラフの構造、トピックに注目した文章構造の理解

- ・1年次から継続しているが、文章の論理展開に注目することが習慣化してきた。一文ずつの意味を理解するのに苦勞する場合も、まずテーマの把握を意識して先へと読み進め、文脈全体として理解することを優先することで、ヒントを得ることができる。
- ・論理展開に注目することは自分で読み進める時に活用でき、便利だという生徒の感想が多い。
- ・漫然と読む生徒が減り、読み進めるスピードが全体としてアップしている。流れをつかむことで、速く読み進めることができる。

### ②文構造や文型を意識した音読

- ・①と合わせて1年次から継続しているが、生徒たちはディスコースマーカーを活用してヒントを得ながら読み進めている。
- ・段落内の構成から、英文全体の構成の把握へと発展しつつある段階である。
- ・音読することでまとまった文章のリスニングにも大いに効果的である。

### ③復習としての英語の「アウトプット」

- ・1年次から継続しているが、「とにかく」何度も英語を書き、口に出すことで、英語の感覚・リズムが身に付き、正確に書くことにつながったという生徒が多い。
- ・英語が苦手だった生徒にとっては、学習に取り組む突破口となっている。
- ・より正確に聞き取る力にも反映している。
- ・教科書と副教材で繰り返し扱われている文法や表現を、意識的にテストに取り上げることで、大切な事項であることを生徒も意識するようになった。(小テスト等)

### ④ テストを活用した目標の設定

- ・生徒にとって、学習の課題とテストが一致して明確な目標となることがモチベーションになっている。
- ・教員にとっても、漫然と時間に追われて授業を進めることなく、長期的視点に立って「何を教えたいのか」という目的意識を持って授業を展開することができた。
- ・テストを見直して復習の材料として活用することが習慣となり、基本事項の定着と自主的な学習習慣の定着という点で効果的だった。

## (4) 成果と課題 [3年生7月実施・GTECと「質問紙調査」、校内アンケート(7月実施)から]

### ア 成果

#### ①生徒の意識

- ・「学んだことを再現する」という意識が生徒間にも徐々に浸透し、英語の力を高めるという目標に向かいつつあるといえる。
- ・3年次では、全体的な復習を始める生徒も徐々に増えている。授業での学習方法も用いて、各自のレベル・目標に応じて、力を伸ばしていくことができるかが鍵になると考える。
- ・ペアワークを授業でよく取り入れているが、生徒は前向きに取り組み、刺激をシェアしている様子である。生徒間のレベルの差が開きつつある現在も、時には競争、時には協調という形で有効ではないかと考える。
- ・扱う教材の難化もあり、「英語の力が伸びている」という実感を持ちにくい生徒が多いのが現状

である。ひとつ達成すれば、求められる語いや表現が次々と難しくなっていくからである。こうした難化とともに行き詰まりを感じている生徒もいる。

## ②教員の意識

- ・この一年を通じて、様々な角度から求められる英語の力について教員の理解が深まり、生徒へ還元することができた。

## ③英語能力

- ・GTECの結果からは、全体としてリーディングとリスニングの力が伸びている。各文や単語レベルではなく、英文全体を捉えようとする姿勢や、論理展開を捉える力が身に付いていることは確かであり、7月に実施されたGTECでもその成果が見られた。
- ・リーディングでは、WPMは学年平均で99.0、目標とするセンター試験のレベル(GTECではWPM110で、センター試験80%以上と判定されている)まではまだ少し差があるが、順調に伸びているといえる。
- ・リスニングは前回の2年次で飛躍的に伸びたため、あまり大きな変化は見られないが、中位層の生徒が力を伸ばしている点が目立つ。
- ・ライティングは、前回より上位層が減り、全体として平均をやや下げる結果となっている。観点別評価では、「構成・展開」では評価が高いものの、「語い」と「文法」でやや評価を落としている。「文法」で一番多い得点帯は8点中2.5点から4点のゾーンであり「理解が困難となるような文法上の誤りがあり、考えが十分に伝わらないところがある」という評価である。
- ・「語い」については、リーディングの分野別での結果では、「語い語法」の読み取りで高い評価がされているが、正しく意図を伝えるためにも、コロケーション等に留意して正確に書くことが課題となると考える。

## イ 課題

- ①GTECからは語い語法を「正確に書く」ことが課題として挙げられた。また扱う教材の難化とともに、語いの「幅」もキーとなる。読むため、書くために語いの指導を工夫したい。
- ②2年次の取組では、ライティングを課題としながらも、英語そのものを正確に読み、書くことに重点を置いたため、読み取った内容に対する自分の意見を書く活動を十分に設けることができなかった。内容に対して問いかけ、自分の考えを持ち、それらを表現する機会も設けていきたい。

## 3 3年間の研究のまとめ

本校では「授業を主体として」教科の力と学習姿勢を身に付けることが、「学力」を伸ばす3年間の大きな柱である。英語科もその流れを踏襲して3年間の指導計画としている。3年間にわたる「英語力向上アクションプラン『小中高英語指導改革プロジェクト』」のまとめとなる本論も、本校でこれまで行ってきたことを大まかにまとめたものと読んでいただいてよいのではないかと考える。

1年次では、中学校までの学習をベースに、高校での学習スタイルを確立することを主眼とした。高校の学習で目的とする4技能のうち、「リーディング」の量が圧倒的に多かったのではないだろうか。主にリーディングを通して大量にインプットし、音読、リスニング、ライティングなどの形

でアウトプットすることで理解を検証していくという学習スタイルを身に付けた。1年次の最初ではフレーズに区切り、英語のリズムや成り立ちを理解することで必死だった生徒たちが、文レベルで内容をよくとらえるようになった。生徒がややおとなしかったため、ペアワークや英作文など、自分の考えを表す活動を多く設定したことが特徴的である。

2年次では、「リーディング」を中心に伸ばしてきた英語の力を、「学習の積み重ねにより」一過性のものにしないこと、すなわち学力の定着を主眼とした。大学入試がやや近づき、テクニックで簡単に学力が伸びるように考える生徒もいる中で、毎日の学習の積み重ねの大切さを浸透させたいと考えた。

教材の難化に伴い、生徒それぞれの習熟度に応じて力を伸ばすことができるよう工夫したつもりだが、大量のテストや課題など「やらされている」と感じる生徒が多少なりともいたことは否めない。

毎日の学習を繰り返すことで力の伸びを実感できた生徒たちは、例えば「リーディング」では、2年次後半にかけて、いくつかの文をまとまりとした文章理解が可能なレベルへと、読む力を伸ばしていった。

3年次では、基本的に2年次の学習内容をより発展させることと、自分で学習を進めることを主眼とした。授業では演習が多く「これまでに学んだ」文法や語いを使って書くことができるか、読み取ることができるかが試される。校内外でのテストも多く、答案を見直して各自の理解のあいまいな点を見いだす機会となった。こうして次々と発見される理解のあいまいな点(=弱点)を確認すべく、基礎的な学習を繰り返して復習した生徒たちは着実に力を伸ばしていった。そうした復習において、1年次から繰り返してきた音読は非常に有効な手段だった。

3年間の高校における英語学習の総仕上げとして、生徒が取り組んでいるのは以下の点である。まとめとして生徒の感想をここにいくつか挙げる。

#### リーディング

- ・文章中のディスコースマーカ―に注目し、問題提起・例示・説明の具体化・結論など、英文の論理展開を意識しながら読み進める。
- ・パラグラフ内、パラグラフ相互の関係、それぞれに目を向けて、英文全体のテーマをとらえつつ、詳細を読み進める。
- ・論理をつなげて読み取るとは、作者とのコミュニケーションなので、作者が何をどのように考えているのか想像することで、英語の論理展開の感覚を楽しむことができる(ある生徒の言葉)。

#### 語い

- ・その場ですぐに分からない単語の意味を調べる姿勢から脱却し、接頭語、接尾語など語の成り立ちに注目し、意味の分からない単語を類推し、かつ文脈から判断して読み進める。
- ・様々な辞書を参照できる電子辞書を便利に使っている。意味を調べるだけでなく、電子辞書内の複数の辞書(特に英英辞典、類語辞典)を活用してパラフレーズすることで、同義語、反意語、派生語へと幅が広がる。また使用する場面や、その用例を確認することでコロケーションもスムーズに身に付く。
- ・例文を活用して理解したり、反例の提示、接頭語や接尾語など語のなりたち、語源などを知ったりすると「次回見たら分かる」からおもしろくなる(ある生徒の言葉)。
- ・様々な分野の文章を読むことで、語いの幅が広がる。同じ事柄を表現するにもイギリス語、アメリカ語があってもおもしろい(ある生徒の言葉)。

## ライティング・リスニング

- ・英作文では、文法に注意して「乱れなく」書くことはもちろん、読解で得た知識(代名詞等の論理展開、構文、語い)も活用して、「意図が伝わるような」英語を書く。
- ・英作文では、元の文の意図を考えながら、英語での言い換えに注目し、構文や語いを意識して、様々な表現で書いてみる。書いてみることで状況にふさわしい英語表現が身に付く。
- ・例文等を書くことと、声に出すことを同時に行い、定着を図る。知っている文は読み、書き、聞きとることができる(ある生徒の言葉)。

「学習の積み重ねにより、未知の英語に対応できる英語力を身に付ける」ことが、3年間の高校での英語学習が目指す究極の目標ではないかと考える。取り組んでいる課題は決して簡単なものではなかったが、英文の意味を読み取った時、意図する英文を書けた時、自分の意見を100語ほどの英語で論理的にまとめられた時、自分の身に付いた力を実感できたのではないだろうか。

こうして得た英語の力を「未知の英語」すなわち勉学・研究、会話、旅行など、今後の人生の様々な場面で使っていくことができたなら、まさに学習の成果である。また「もっと英語を勉強しよう、他の外国語を勉強しよう」と思った時に、高校での学習法が役に立てば、これ以上の成果はないと思う。